

## 担い手の経営のライフステージに応じた支援

 (3) 大豆の産地化、加工による付加価値向上等の取組みについて
JAふくしま未来（福島県）

新規	継続
○	
	(平成 年 月)

1 動機 (経緯)	JAふくしま未来安達地区は、東日本大震災および原発事故の影響により、主力産品である「米」が作付制限・出荷制限を余儀なくされたことから、「大豆」を軸に転作を進めました。しかしながら、大豆についても、H25年に一部が出荷制限の対象となり、平成28年3月に出荷制限は解除されたものの、風評被害により販売価格は低迷しており、対策が必要となっていました。
2 概要	大豆の付加価値向上・販売拡大に向け、大豆加工品を中心とした6次化商品の開発・販売による新たなビジネスモデルの構築に取り組んでいます。平成29年3月に大豆加工施設「豆腐工房」の新設、ファーマーズマーケット「こらんしょ市二本松店」の増床建替えを行うとともに、安達東高校と連携した商品開発、JA・全農の直売所等を活用した地産地消を進めています。 大豆加工施設「豆腐工房」の新設費用の一部は農林中央金庫から助成を受けています。
3 成果 (効果)	本取組みは、大豆の付加価値向上や消費拡大に効果的であり、大豆生産の拡大を通じた生産者所得の向上・耕作放棄地の解消につながることで期待されています。
4 今後の予定 (課題)	開発された6次化商品については、直売所等で効果的にPRを行い、着実に販売拡大につなげていく予定です。

【豆腐工房の様子】

